

【取組の位置づけ】

基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	②地域団体等との協働事業の推進
取組項目	地域の身近な課題に共に取り組むため、「住みよい暮らしづくり計画」の参加校区の拡大と体制づくりを支援
効果目標等	参加校区数（累計） 現状(H22) 4校区 目標(H27) 19校区

【取組の概要】

取組の目的	地域のことを一番よく知る住民自らが主体となって、地域の特色や課題を整理し、より暮らしやすい校区にするための方法を考え、計画書にまとめてそれを実践することで、「市民が主役のまちづくり」を実現する。			
状 況 (目標の設定に至った経緯とH23年度までの取組み状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年度～22年度にかけて、モデル校区（吉田方・新川・杉山・下地の4校区）による計画作成の取組みを実施</li> <li>モデル校区での実績を検証し、平成23年度からは校区がより取組みやすいように、総合計画的なまちづくり計画の作成だけでなくテーマを特化したまちづくりの取組みについても支援して、取組み校区を拡大中</li> </ul>			
平成24年度	取組内容 (H24年度計画)	目標	住みよい暮らしづくり計画作成 新規参加校区 1校区 (累計 7校区)	
		手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり出前講座等の実施による、先行取組み校区の実例紹介</li> <li>住みよい暮らしづくり計画の作成だけでなく、「情報の受発信の強化」など、テーマを特化した取組みも推進</li> </ul>	
	活動実績 (どのような活動を行い、結果どうなったか)	活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会役員を対象とした「まちづくり講習会」（受講者500名）にて、先行取組み校区である下地校区の実例を紹介</li> <li>計画作成の取組みに加え、テーマ特化型の取組みに取り組んだ</li> </ul>	
		結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画作成の取組み・・・1校区（岩田）</li> <li>テーマ特化型の取組み・・・4校区（前芝、西郷、牛川、鷹丘）</li> </ul> <b>→合計5校区が参加</b>	
事業実績 (成果を表す指標、実績の推移)	実績	指標1	参加校区数	指標2
		H22	4校区(モデル校区累計)	実績
		H23	2校区(累計6校区)	
H24	5校区(累計11校区)			
内部評価 (達成度評価)	A	1校区の新規参加が目標だったが、5校区が新規参加して累計11校区となったことから、目標を大幅に上回ることができたと考え、達成度をAとした。		
(評価基準) A：計画を越える達成 B：計画達成 C：完了 D：未達成 E：中止・保留				
平成25年度	今後の展開 (H25年度に何を行い、どのような状態にしたいのか)	市民協働推進課が単独で推進するだけではなく、各課が校区と一緒に進む同様のまちづくりの取組みと連携しながら、取組み校区を拡大していく。 <b>【例】</b> 防災危機管理課の「防災まちづくりモデル校区事業」 健康増進課の「健康のまちづくり事業」 など		

【取組の位置づけ】

基本方針	1 市民等の公益的な地域活動の推進
重点推進項目	⑥行政の協働推進体制の強化と効果的な支援策の推進
取組項目	市民協働に関する職員研修の充実
効果目標等	市民協働に関する職員意識の向上

【取組の概要】

取組の目的	職員の市民協働に対する意識を醸成し、地域に入って活動する動機付けを行うとともに、各職場での実践における能力向上を図る					
状況 (目標の設定に至った経緯とH23年度までの取組み状況)	市民協働によるまちづくりを推進するため、平成20～22年度までは各課の市民協働推進員（課長補佐級）を対象とした研修を実施。23年度からは主査以下を対象に市民協働研修を実施し、新入職員研修と合わせて、実務を担当する若手～中堅職員に対しての意識づけをしている。					
平成24年度	取組内容 (H24年度計画)	目標	職員であると同時に市民であるという意識を持ち、地域の活動等に積極的に参加する意識の醸成			
		手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入職員をはじめとした各階層への研修等の実施</li> <li>・前年度のアンケート等を踏まえ、市民協働研修を実施</li> </ul>			
	活動実績 (どのような活動を行い、結果どうなったか)	活動	市民協働研修の開催 講演「まちづくりの主人公は誰だ」 (有) あしコミュニティ研究所 代表 浦野秀一 氏			
平成24年度	事業実績 (成果を表す指標、実績の推移)	結果	受講者数・・・114名（新規採用職員を中心に、浦野氏の研修を未受講の職員が対象）			
		実績	指標1	研修受講者数	指標2	
			H22	206人	実績	
H23	298人					
H24	114人					
平成24年度	内部評価 (達成度評価)	D	24年度は、人事課主催の新規採用職員研修および退職者を対象とするライフプランセミナーに参加できなかったため、新規採用職員については市民協働研修の対象者とすることでカバーしたものの、退職者については実施できず、受講者数が減少したことから、D評価とした。			
		(評価基準) A：計画を越える達成 B：計画達成 C：完了 D：未達成 E：中止・保留				
平成25年度	今後の展開 (H25年度に何を行い、どのような状態にしたのか)	市民協働研修について、これまではまずは受講者数を増やす意味からも講演形式の研修を行ってきたが、効果の検証がしにくいことや、受講者アンケートでも市民の声を聞けるような実践研修を望む声も多いことから、そうした課題や要望に応える研修内容（例：市民を交えたワークショップの開催など）を検討していく。				

平成25年7月6日(土)  
行財政改革プラン 公開プレゼンテーション

## 「住みよい暮らしづくり計画」の推進と 市民協働に関する職員意識の醸成



文化市民部 市民協働推進課



## 「市民協働」とは

「豊橋市市民協働推進計画」より

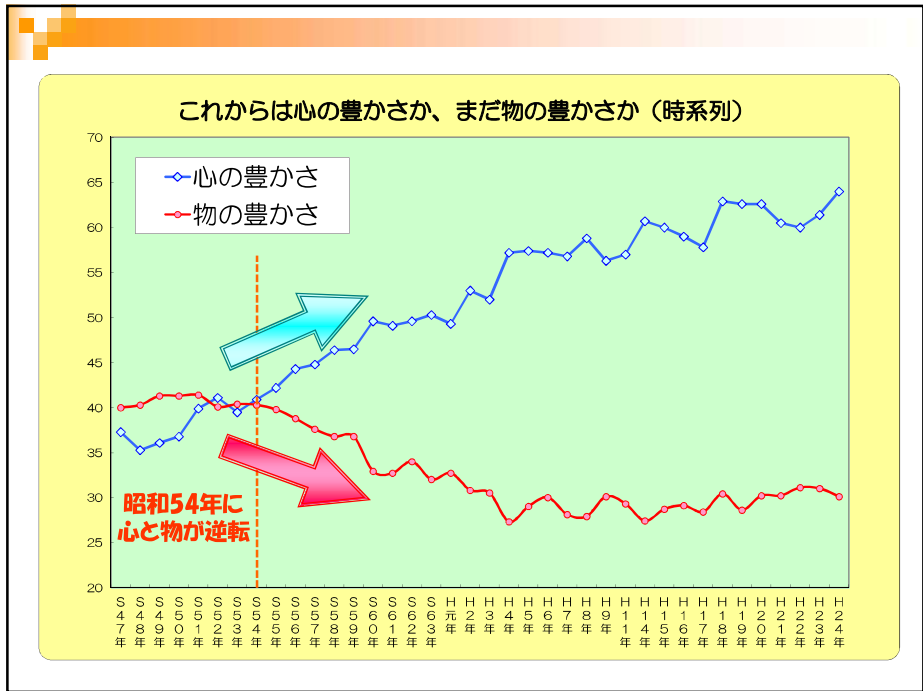
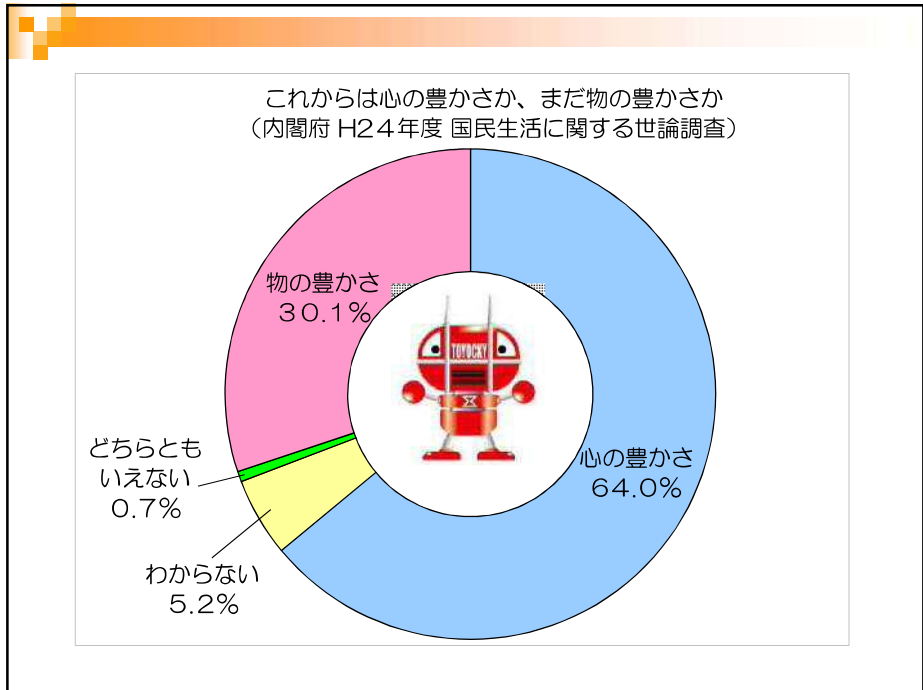
市民及び市が互いの特性を認識し、  
協力し合い、より良いまちづくりを  
目指して、多種多様な取組を行うこと

背景には…



価値観、生活様式の多様化





心の豊かさと言っても、生活様式も多様化しており、価値観は人それぞれ違う



地域の課題やニーズも地域によって様々



一律・公平なサービスが求められる行政では多様化するニーズに対応するには限界がある



市民協働は時代の要請！



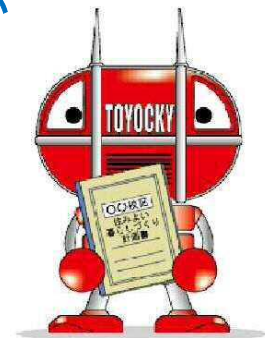
まちづくりに市民・地域の力が不可欠に

## 住みよい暮らしづくり計画

自分たちのまちは、自分たちが一番よく知っている



だから、自分たちのまちは自分たちでつくる！



校区単位で、

そこに住んでいる人たちが中心となり…

10年、20年後も暮らしやすいまちにするために…

「何が必要か」「何をしていくのか」を計画にまとめます

## 計画作成のメリット

- 校区の現状や課題、目指す将来像をみんなで共有できる



- 役員が代わっても、計画による継続的なまちづくりができる



- 各種団体の連携が強まり、地域の絆が深まる



## モデル事業として4校区で先行して計画作成

平成20年度～ 吉田方・新川・杉山  
平成21年度～ 下地



## 計画作成のようす



## 吉田方校区の取り組み

背景(吉田方が抱える課題)

- 交通事故や窃盗などの犯罪が多い
- いつ来るか分からない東海地震に備えたい



「防犯」「防災」「交通安全」の3つのグループを結成し、計画作成



交通安全パレード

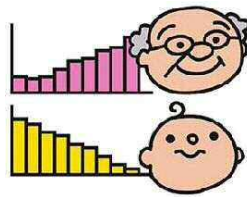


校区の安全マップ作成

## 新川校区の取り組み

背景(新川が抱える課題)

- **少子高齢化**が、市全体と比較してもかなり進んでいる



「子ども」と「高齢者」を  
計画作成のキーワードに



## 下地校区の取り組み

校区民へのアンケート結果などをもとに、  
3つの部会を設置してまちづくり計画を作成

3つの部会	具体的な取組み例
自然・環境	旧東海道に花を植える活動 下地緑地を水と緑の多目的公園化
安心・安全	自主防災組織の構築 防災マップづくり
文化・イベント	校区のイベントカレンダーの作成 夏祭りの充実(下地音頭の復活)



## 下地校区の取り組み



イベントカレンダー



自主防災会による  
校区防災マップ作成



夏祭り(下地音頭の復活)



東海道花咲かせ隊

計画を実現へ！  
(市民協働推進補助金も活用)

モデル校区の結果を踏まえ、  
H23年度より他校区へも展開

モデル校区…校区の総合的な  
まちづくり計画



他校区への展開にあたっては、



- 校区独自の課題
- 校区が力を入れたいテーマ

に特化したまちづくりの取り組みも開始

**H23年度の取組み**

**岩田・つつじが丘校区にて  
情報受発信機能の強化**

→ 校区のホームページの開設

イベントカレンダー
各種団体の活動紹介
校区防災マップ
市民館だより

**校区市民館＝校区のコミュニティセンター**  
 お役立ち情報を市民館に集め、HPで情報発信

**H24年度の取組み①**

**鷹丘・牛川校区にて情報受発信機能の強化**

→ 校区のホームページの開設

鷹丘校区自治会ホームページ

TOP	自治会	行事予定	近況版	新聞記事	トピックス
-----	-----	------	-----	------	-------

★トップページ

お知らせ

このページは鷹丘校区自治会のホームページを再現し、最新の情報を発信していく予定です。ご意見やお問い合わせは、各団体のホームページからお願いいたします。

鷹丘校区自治会

お知らせ

鷹丘校区  
平成25年4月21日 公開  
平成25年6月11日 自治会 追加

★トピックス

日付	行委員会	内容	写真
		いーやあそび 会です	
		鷹丘校区自治会 の活動です。	
		鷹丘校区自治会 の活動です。	
		鷹丘校区自治会 の活動です。	

鷹丘校区 H25.4月開設  
牛川校区 作成中

## H24年度の取り組み②

### 前芝校区市民館を活用したまちづくり

→ 新設される前芝校区市民館を  
活用してできることをみんなで検討



地域の声を取り入れて、屋上を津波避難場所に  
できるように、外階段も設置する予定



## H24年度の取り組み③

### 西郷校区にて「地域再生」 地域を見つめ直す取組み

→ 「子ども」「歴史・文化」「高齢化」「防災」などの  
テーマで意見交換し、地域の課題を洗い出して  
今後の方向性などをまとめた



議題	発言内容	議事録
1. 地域再生の意義	地域再生とは、地域の課題を解決し、地域を元気にすることである。特に、高齢化や人口減少が進む地域では、地域再生が不可欠である。	地域再生の意義を共有し、地域再生の重要性を認識した。
2. 地域再生の課題	地域再生の課題は、高齢化、人口減少、地域資源の減少などである。特に、高齢者の増加は、地域再生の大きな課題である。	地域再生の課題を洗い出し、地域再生の方向性を検討した。
3. 地域再生の取組み	地域再生の取組みは、地域資源の活用、地域交流の促進、地域サービスの充実などである。特に、地域資源の活用は、地域再生の重要な取組みである。	地域再生の取組みを話し合い、地域再生の方向性を決定した。
4. 地域再生の成果	地域再生の成果は、地域資源の活用、地域交流の促進、地域サービスの充実などである。特に、地域資源の活用は、地域再生の重要な成果である。	地域再生の成果を話し合い、地域再生の方向性を決定した。

## H24年度の取り組み④

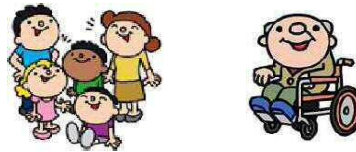
### 岩田校区にて住みよい暮らしづくり計画作成



#### 岩田校区特有の課題

- 外国人住民との共生
- 独居老人の見守り強化

などを計画に盛り込む



## 取り組みの経過

	H20	H21	H22	H23	H24
吉田方			→	} モデル校区として計画作成	
新川			→		
杉山			→		
下地			→		} 計画作成
岩田				→	} 校区の情報の受発信強化
つつしが丘				→	
前芝					→ 校区市民館を活用したまちづくり
西郷					→ 地域再生の取り組み
鷹丘					} 校区の情報の受発信強化
牛川					

## 今後の展開

### 他課が校区と一緒に取り組む まちづくり事業とも連携

- 防災まちづくり  
モデル校区事業  
(防災危機管理課)



- 健康のまちづくり  
事業(健康増進課)



## 市民協働に関する職員意識の醸成

### 職員の市民協働研修の実施

- 職員の市民協働に対する意識醸成
- 地域に入って活動できる人材の育成
- 各職場での実践における能力向上

管理職、若手職員、新規採用職員、  
退職職員など、各階層に研修実施



## 管理職(市民協働推進員)への研修

H20～22年度の3年間、各課の「市民協働推進員」  
(課長補佐級職員)を対象に市民協働研修を実施



### 【参考】市民協働推進員の役割

- 市民協働により行う事業等に対する調整
- 協働の観点での事務事業の見直し及び改革改善
- 課内の市民協働意識の醸成、共有化

## 若手職員への研修

H23年度からは、実務を担当する主査以下の  
若手職員を対象に市民協働研修を実施

講演「まちづくりの主人公は誰だ」

(有)あしコミュニティ研究所 浦野秀一氏

- 市民協働の担当者は「全職員」
  - 行政の協働化 ～庁内協働意識を高める～
  - 職員も地域の活動に参加
- など



## 新規採用職員への研修

人事課の新規採用職員研修にて、「市民協働はじめの一步」の研修を実施

- 「市民協働」の基礎知識
- 実際の協働事例の紹介
- 今後業務を遂行する際の心構え など



## 退職職員への研修

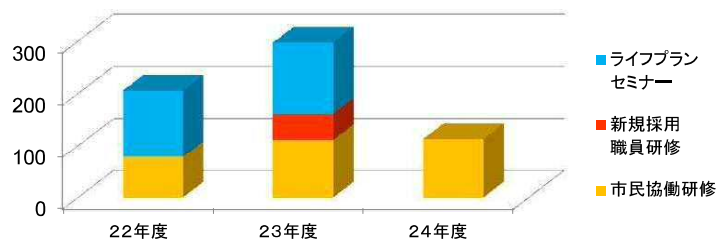
人事課主催の退職者を対象としたライフプランセミナーにて、退職後の市民活動への参加の推奨

- 自治会活動など地域への参加
- ボランティア活動の参加
- 実際に活動している人の事例紹介



## 受講者数の推移

	市民協働研修	新規採用職員研修	ライフプランセミナー	計
22年度	79	0	127	206
23年度	112	50	136	298
24年度	114 ←	0	0	114



## 職員研修の課題

### 実践的な研修を望む声への対応

Q5 今後、市民協働の意識を高めるために、こういった研修を受けてみたいですか？

・ 簡単な冊子で職員や市民が取り組む活動、他市の事例を紹介すると面白そう	11
・ 実地研修、フィールドワーク	9
・ 実際に市民と話ができる実務研修、市民とフランクに意見交換できる研修	7
・ 今日の話にも出てきた広聴について	3
・ 自治会研修	3
・ 各課で協働できることを話し合い全職員で取り組んでいく姿勢を作りたい(WS)	2
・ 実際に市民協働を行うための具体的な政策	2
・ EQを高める研修	2
・ 今日のような研修	2
・ 他市町村の研修に参加したい	2
・ 特になし(あとは実践)	1
・ プロジェクトマネジメント、計画立案の手法	1
・ 高齢化対策、福祉面での協働について	1
・ コーディネート力や共助力をつける研修	1

平成24年度 市民協働研修アンケートより



## 職員研修の今後

市民の声を聞けるワークショップ研修など  
より実践的な研修に向けて内容の見直し

量(人数) → 質(内容) 重視へ

市民を交えたワークショップの例 : 平成21年度 市民協働推進補助金交付事業  
「むすんで広がる子育て支援」



市職員、自治会長、市民活動団体、学生と一緒に「子育て」について話し合った

## 市民協働のまちづくりの実現へ

